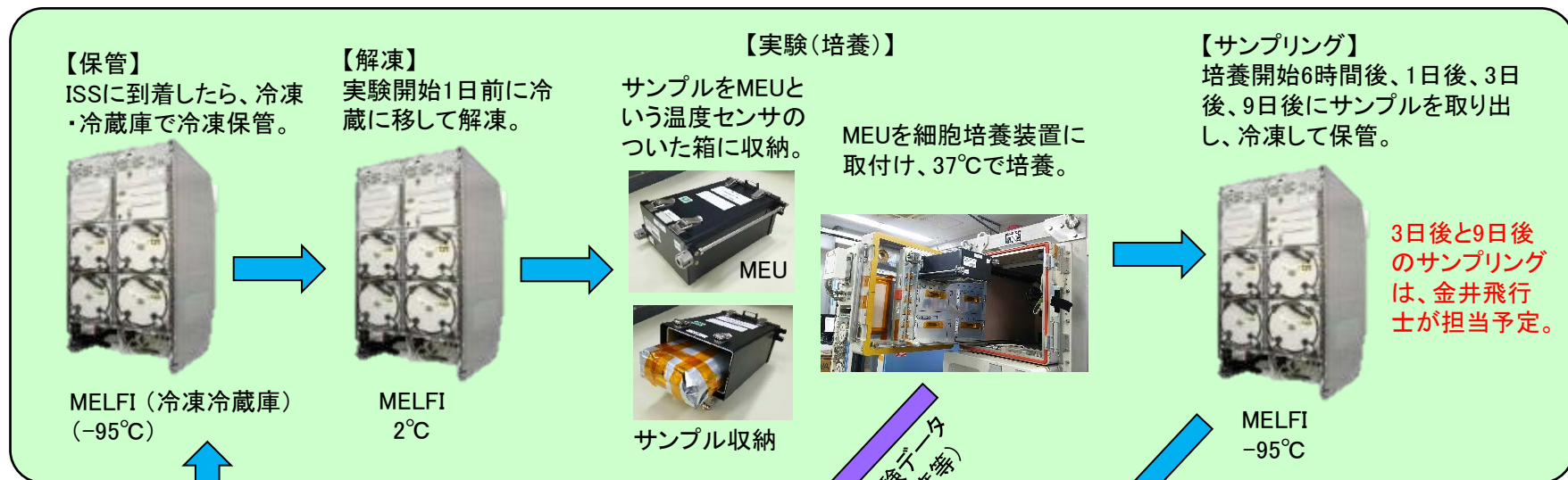


# Amyloid実験(1回目)の概要



Amyloid実験(1回目)のサンプル(13cm × 11cm × 5cm、0.3kg) 4個を、日本で作製。


↓  
冷凍状態でアメリカに輸送

↓  
冷凍したまま、ケネディ宇宙センターからファルコン 9ロケット/ドラゴン補給船13号機で打上げ。



筑波宇宙センターで、実験の進行状態をモニタ

運用チーム  
・実験運用担当  
・研究者



冷凍したままドラゴン補給線13号機で回収

↓  
冷凍状態で日本に輸送

↓  
解析



Amyloid実験(1回目)のサンプルには、濃度や性質が少しずつ異なるアミロイドタンパク溶液が、少量(0.2ml)・多種類入っています。

1回目の実験では、アミロイドタンパクの濃度・性質・培養時間などの最適な条件を求めます。

2018年6月に予定されている2回目の実験では、1回目の結果を基に、種類を少なくする代わりに量を多くし、良質なアミロイド線維を大量に得て、詳しい解析を行う予定です。